

# 早稲田オープン・イノベーション・ エコシステム挑戦的研究プログラム (W-SPRING)

## 2026 年度 募集要項 (春) <区分 1>

### 【日本人学生等向け】

【募集対象者：2026 年 4 月 1 日時点】

博士後期課程	1 年次入学者～2 年次在学者
一貫制博士課程	3 年次～4 年次在学者

※この募集要項は日本人学生等（永住者等の在留資格保有者を含む）を対象とした募集要項となります。留学生の方は、<区分 2>【留学生向け】の募集要項をご確認ください。応募資格に関する詳細は、本要項の「応募資格」を参照ください。

※なお、申請書ならびに事前登録フォームや本登録申請フォームの内容に誤りが認められた場合（例：申請時の学年・入学時期が実際と異なるなど）、遡って支援を取り消すことがあるので注意してください。

### 目次

1. 趣旨・概要	2
2. 応募資格	3
3. 募集人数・支援期間	6
4. 研究奨励費等の内容	7
5. 支援対象学生の義務	8
6. 支援の停止・返還	8
7. キャリア開発・育成プログラムの科目履修	9
8. 国際性を涵養するプログラムへの参加	16
9. インターンシップへの参加	17
10. プログラム進捗報告	18
11. 応募方法	19
12. 選考について	20
13. 問合せ先	20

## 1. 趣旨・概要

早稲田大学（以下「本学」という）は、社会実装と学術の双方を俯瞰でき専門分野以外にも知見と人材ネットワークを有する博士学生を育成し、博士の多様なキャリアパスを確立させることを目指す。

「早稲田オープン・イノベーション・エコシステム挑戦的研究プログラム」（以下「W-SPRING」という）は、日本の科学技術・イノベーションの将来を担う優秀な志ある博士後期課程学生に対して、生活費相当額および研究費の両面から経済的支援を最大 3 年間行い、自由に挑戦的・融合的な研究に専念できる環境を提供する制度である。あわせて、キャリア開発・育成コンテンツ（国際性の涵養、学際性の涵養、キャリアパス開発、トランスファラブルスキルの習得、インターシップ等）をはじめとする様々な支援により、博士人材が産業界等で幅広く活躍するための素養を身に付ける機会を提供する。

W-SPRING が輩出した若手人材が、産業界等で大いに活躍し、将来的には本学の世界に伍する研究大学への進化と日本の産業競争力強化に貢献することを期待する。

なお、W-SPRING は、科学技術振興機構（以下「JST」という）「次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）」による支援の下、本学 Global Research Center 推進本部に設置する「早稲田オープン・イノベーション・エコシステム挑戦的研究プログラム部会（W-SPRING 部会）」により運営されるものである。JST から本学への W-SPRING の支援枠数・期間は 2026 年度までは確約されているが、2027 年度以降は本学が JST へ要望している支援枠数・期間が引き続き認められることを前提として行うものである。

注：文部科学省より「研究奨励費（生活費相当額）支援の対象は主として日本人学生に限定する」との方針が示されたことに伴い、JST において SPRING 制度の見直しが行われ、2027 年度以降、生活費相当額の支援対象は日本人学生等に限定されることが決定しました。また、2026 年度の募集より、2027 年度以降に準じた運用の実施が推奨されていることから、今回より運用を変更して募集を行います。

## 2. 応募資格

応募者は、**産業界で活躍すること、あるいは、自身の研究やアイデアの社会実装（起業を含む）を希望し、かつ、本プログラムが課すキャリア開発・育成コンテンツへの参画意欲があること**を前提条件とする。その上で、以下の(1)～(5)の全てを満たすこととする。

- (1) 2026年4月1日時点で本学博士後期課程1年次、もしくは、2026年4月1日時点で一貫制博士課程3年次に在学している者（2026年4月に入学予定の者を含む）。

また、2025年4月に本学博士後期課程に入学し、2026年4月1日時点で博士後期課程2年次もしくは一貫制博士課程4年次に在学している者のうち、**過去に実施された W-SPRING 応募時に休学等の事情により応募資格がなかった者。**

なお、本募集要項における D1～D3 の表記と、博士後期課程・一貫制博士課程の各学年の対応関係は以下のとおりとする。

	博士後期課程	一貫制博士課程
D1	1年	3年
D2	2年	4年
D3	3年	5年

- (2) 現在の研究テーマが、以下の横断的4分野のいずれかに属することを認識し、貢献する意欲のある者。1学生につき1分野のみ申請可能とし、複数分野への申請は認めない。

	対象分野	主な研究テーマの事例
1	グリーンイノベーション	プラネタリーバウンダリー、気候変動、カーボンニュートラル、脱炭素社会、スマートグリッド、次世代型太陽電池、全固体電池、新型二次電池、カーボンリサイクル、水素社会、エネルギーキャリア、マテリアルズ革新、ゼロカーボンシティ、ゼロエミッションハウス/ビルなど
2	ライフイノベーション	新型コロナウイルスなど感染症、少子高齢化、健康・医療戦略、オンライン医療・介護、医療経済、プレジジョンメディシン、ゲノム編集、Well-being、人生100年時代、社会参加寿命、農林水産研究イノベーション戦略、海洋基本計画、レギュラトリーサイエンス、代替タンパク質、プラネタリーヘルスなど
3	デジタルイノベーション	デジタル化、DX、超低消費電力計算、サイバー空間とフィジカル空間の融合、ロボットによる社会変革、AIと情報、量子コンピューティング、Beyond 5G、データ駆動型研究、スマートラボ、デジタルツイン、スマートシティ・スーパーシティなど
4	ソーシャルイノベーション	都市と地域づくり、多文化共生社会デザイン、都市農業の戦略的再生、強靱な社会、レジリエント、安全・安心、安全保障、SDGs、サーキュラーエコノミー、資源循環、総合知による社会変革、ELSI、イノベーション・エコシステム、ネイチャー・ポジティブなど

- (3) 所属機関の指導教員、または博士後期課程の指導予定教員等が推薦する者。
- (4) 研究倫理に関する研修（APRIN e-ラーニングプログラム(eAPRIN)「責任ある研究行為」）を受講済あるいは、研究費の支給が開始するまでに受講する者。  
※採用決定後に受講方法等を改めてお知らせいたします。
- (5) 日本国籍を有する者および5ページに記載の「応募資格の整理表」の「応募資格」欄に「○」の記載がある在留資格を有する者。

なお、支援開始時に以下に該当する者は、本プログラムの支援対象外となる。

- 日本学術振興会（JSPS）特別研究員
- 助手、研究助手
- W-SPRING-AI 支援対象学生。W-SPRING の支援を受ける学生が W-SPRING-AI に採択となった場合、W-SPRING から W-SPRING-AI への支援切り替えとなる。
- 支援期間中、所属する大学や企業等から、生活費相当額として十分な水準(税込 240 万円/年)で、給与・役員報酬等の安定的な収入※を得ていると認められる学生。  
※「安定的な収入」とは、正社員としての給与、ベンチャー企業の役員報酬、非常勤講師給等の固定的な収入を指す。有償のインターンシップ、TA、RA やアルバイト等の収入、および研究費としての支援は「安定的な収入」に含まない。

奨学金を受給中または受給予定の学生も本プログラムへの申請は可能であるが、奨学金によっては、本プログラムに採択された際に、奨学金の採用取消や交付済み奨学金の返金を求められる可能性があることを了承の上申請を行うこと。

- (注 1) 民間団体・地方公共団体等の奨学金を受給中または受給予定の学生はあらかじめ団体に条件を確認することが望ましい。
- (注 2) 独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）の学習奨励費（給付型）との併給は不可。  
独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）の奨学金（貸与型）との併給は可能。ただし、令和 5 年以降の同奨学金第一種奨学生については、W-SPRING の支援を受ける場合、大学院博士課程における「特に優れた業績による返還免除候補者」の推薦対象外となる。
- (注 3) 大学院博士後期課程研究者養成奨学金（学内奨学金）の申請を検討している場合は、所得制限等の取り扱いについて、以下 Web サイトにある募集要項を確認すること。

<https://www.waseda.jp/inst/scholarship/aid/programs/doctoral-students/ay2023/>

【応募資格の整理表】

区分	該当例		在留期間	応募資格
①日本国籍を有する者	日本人、日本に帰化した外国人		—	○
②特別永住者 (日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法第3条)	入管特例法第3条の規定による法定特別永住者として本邦に在留する者		無期限	○
③永住者、日本人の配偶者等、永住者の配偶者等 (出入国管理及び難民認定法別表第2)	永住者	法務大臣から永住の許可を得た者	無期限	○
	日本人の配偶者等	日本人の配偶者、子、特別養子	5年、3年、1年又は6月	○
	永住者の配偶者等	永住者・特別永住者の配偶者及び本邦で出生し引き続き在留している子	5年、3年、1年又は6月	○
④定住者 (出入国管理及び難民認定法別表第2)	一定範囲のインドシナ難民、一定範囲のヴェトナム難民、日系3世、定住者の配偶者、帰化した日本人・永住者・特別永住者・定住者の実子、中国残留邦人及びその子、日本人の実子を扶養する外国人親 など		5年、3年、1年又は6月又は法務大臣が個々に指定する期間	×
	上記のうち将来永住する意思があると認められた者		(5年以内)	○
⑤家族滞在 (出入国管理及び難民認定法別表第1)	教授、芸術、宗教、報道、高度専門職、経営・管理、法律・会計業務、医療、研究、教育、技術・人文知識・国際業務、企業内転勤、介護、興行、技能、特定技能2号、文化活動又は留学の在留資格をもって在留する者の扶養を受ける子など		法務大臣が個々に指定する期間 (5年以内)	×
	①上記のうち、下記のいずれにも該当する者 ・国内で出生又は12歳に達した日の属する学年の末日までに初めて入国した者 ・日本の小学校等から高校等までを卒業・修了した者 ・大学等の卒業・修了後も日本で就労して定着する意思があると認められた者			○
	②本邦における在留期間とその他の事情を総合的に勘案して①に掲げる者に準ずると認められた者			
⑥右記の在留資格により在留する者 (出入国管理及び難民認定法別表第一の一から五)	(1) 外交、公用、教授、芸術、宗教、報道 (2) 高度専門職、経営・管理、法律・会計業務、医療、研究、教育、技術・人文知識・国際業務、介護、企業内転勤、興行、技能、技能実習 (3) 文化活動、短期滞在 (4) 留学、研修 (5) 特定活動		区分の内容に応じて15日から5年の期間(高度専門職の一部は無制限)	×

### 3. 募集人数・支援期間

支援開始時の状態		募集人数	支援期間 (最大)
学年	在学期間		
博士後期課程 1 年次(D1)	0.0 年 (2026 年 4 月入学)	30 名程度	2026 年 4 月 1 日～ 2029 年 3 月 31 日
	0.5 年 (2025 年 9 月入学)		2026 年 4 月 1 日～ 2028 年 9 月 30 日
博士後期課程 2 年次 (D2)	1.0 年 (2025 年 4 月入学)	若干名	2026 年 4 月 1 日～ 2028 年 3 月 31 日

※一貫制博士課程の場合は、3 年次 (D1)、4 年次 (D2) と読み替える。

※上記在学期間の ( ) 内は、博士後期課程進学後に休学をしていない学生の例示。博士後期課程進学後、休・留学等を取得したことにより、上記の在学期間の取扱いが不明な場合は、申請に先だって「13.問合わせ」に記載の W-SPRING 事務局へ問い合わせること。

※支援開始後に休学により在学しない期間が生じた場合、その期間は支援を中断する。ただし、支援中断による支援期間延長は行わない。

支援期間は D3 の標準修業年限終了時までとする。ただし、支援期間中に日本学術振興会の特別研究員や本学助手に採用された場合等、W-SPRING の支援要件を満たさなくなった者は、要件を満たさなくなった時点において支援打ち切りとする。

なお 2027 年度以降の支援枠については、JST が本学の取組状況等を踏まえ毎年度検討するため、結果として支援期間の短縮や支援金額の減額がなされる可能性がある。

## 4. 研究奨励費等の内容

研究奨励費等（生活費相当額<sup>※1</sup>、研究費<sup>※2</sup>）の内容は、書面審査および面接審査の評価結果により、以下のいずれかとする。

評価結果	研究奨励費等の内容
S 評価	年間 290 万円（生活費相当額 240 万円 + 研究費 50 万円）
A 評価	年間 270 万円（生活費相当額 220 万円 + 研究費 50 万円）

※1 「生活費相当額」については、税法上「雑所得」として扱われるので、所得税や住民税の課税対象となり、毎年確定申告の手続きが必要となる。また、健康保険や扶養手当等における扶養の扱いも関係することから、応募の際には、扶養者（親等）によく相談すること。

※2 「研究費」は公的研究資金の扱いとなり、学内手続き上は原則として科学研究費助成事業（「科研費」）に準ずる。具体的な手続きは「研究費執行マニュアル」に従うこと。ただし、用途等については本プログラム用に別途定めることがある。

○研究費執行マニュアル

<https://waseda-research-portal.jp/how-to-use/research-expenses-execution/>

### (1) 支援期間・給付金額

本募集における採択者（S 評価、A 評価）の支援期間および給付金額は以下のとおりである。支援期間は、支援開始時の学年・在学期間により異なる。なお、支援停止要件に該当した場合は支援期間が短くなる場合がある。

#### <S 評価の場合>

(支援開始時)		研究奨励費等	2026 年		2027 年		2028 年	
学年	在学期間		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
D1	0.0 年	生活費相当額	240 万円		240 万円		240 万円	
		研究費	50 万円		50 万円		50 万円	
	0.5 年	生活費相当額	240 万円		240 万円		120 万円	-
		研究費	50 万円		50 万円		25 万円	-
D2	1.0 年	生活費相当額	240 万円		240 万円		-	
		研究費	50 万円		50 万円		-	

#### <A 評価の場合>

(支援開始時)		研究奨励費等	2026 年		2027 年		2028 年	
学年	在学期間		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
D1	0.0 年	生活費相当額	220 万円		220 万円		220 万円	
		研究費	50 万円		50 万円		50 万円	
	0.5 年	生活費相当額	220 万円		220 万円		110 万円	-
		研究費	50 万円		50 万円		25 万円	-
D2	1.0 年	生活費相当額	220 万円		220 万円		-	
		研究費	50 万円		50 万円		-	

### (2) 研究奨励費等（生活費相当額、研究費）の支給時期

研究奨励費等（生活費相当額、研究費）の支給時期は以下のとおりとする。

生活費相当額	1 月に 1 度、大学に届出の学生本人名義口座（日本国内のみ）に振込。 S 評価: 20 万円/月 A 評価: 4 月分・10 月分は 18.5 万円/月、それ以外の月は 18.3 万円/月
研究費	支援年度に一括配付。2026 年度分は、2026 年 4 月末に 50 万円を配付予定。

## 5. 支援対象学生の義務

### (1) ジョブ型研究インターンシップのシステムへ登録すること。

※ジョブ型研究インターンシップとは、産業界と大学が協力して実施する長期・有給・ジョブ型のインターンシップ制度。

**専用システムへの登録が必要**であり、登録すると企業のジョブディスクリプション（業務内容、必要とされる知識・能力等）を閲覧することが可能となるが、ジョブディスクリプションへの応募は任意。

※ジョブ型研究インターンシップ概要

資料①[「ジョブ型研究インターンシップ」とは](#)

資料②[参加学生ガイド\\_ジョブ型研究インターンシップ](#)

※インターンシップの詳細については、「9. インターンシップへの参加」を参照すること。

- (2) 本プログラムが指定するキャリア開発・育成プログラム関連科目を9単位相当修得すること。
- (3) 上記とは別に、国際性を涵養するプログラムのいずれかに参加すること。
- (4) 企業インターンシップへの参加を強く推奨する。
- (5) 各年度末に「プログラム進捗報告書」を定められた様式に沿って作成し、提出すること。これとともに D3 学生は、支援最終学期にプログラム成果報告会を行う。
- (6) 博士号取得後には、産業界においてイノベーション創出に挑戦することを強く意識して研究活動すること。
- (7) 大学から求められた場合には、本プログラムの広報活動に、研究活動に支障のない範囲で協力すること。
- (8) 本プログラム期間終了後の各種調査に協力すること。W-SPRING は、JST「次世代研究者挑戦的研究プログラム」の補助の下に実施するため、終了時から10年程度、就職等の現況調査を行う可能性がある。
- (9) 本プログラムで指定する研究倫理教育（eAPRIN）を受講・合格した上で、研究上の不正行為、研究費の不正使用を行わないこと。
- (10) 研究費を支給して自立的に研究を進めることから、知的財産の扱い等に関して別に定める書類等に同意すること。
- (11) その他、本学が必要と定めた事項に従うこと。
- (12) 令和9年度（2027年度）日本学術振興会（JSPS）特別研究員（DC2）に応募することを推奨する。また、日本学術振興会特別研究員に採択された場合は、W-SPRING の支援対象者から外れ、日本学術振興会特別研究員として活動することを推奨する。

※特別研究員採用期間中は、他の身分（例：報酬の有無にかかわらず、会社その他の団体の役員になることや、自ら営利企業を営むこと等）を持つことはできないため、起業を検討している場合等は留意すること。

## 6. 支援の停止・返還

次のいずれかに該当する場合は、研究奨励費等の支給を停止する。

- (1) 退学等により本学に在籍しなくなったとき。
- (2) 休学により、本学に在学しない期間が生じたとき（休学期間における支給を中断する）。
- (3) 懲戒による停学処分を受けたとき。
- (4) 研究における不正行為、研究費の不正使用等の行為があったとき。
- (5) 本プログラム登録後の義務を怠ったものと判断されたとき。
- (6) 各年度末の「プログラム進捗報告書」による経過審査により、進捗が著しく不十分であると判断されたとき。
- (7) 応募資格を満たさない事実があったとき、また採択後に資格を満たさなくなったとき。
- (8) 上記(1)～(7)のほか、本プログラム採択者として適当でない事実があったとき。

**支給中断や停止の事由により受給資格がないにもかかわらず支給を受けた研究奨励費等があるとき（学費未納抹籍により遡って学籍が末梢されるケースを含む）は、その金額を本学に返還することとする。**

## 7. キャリア開発・育成プログラムの科目履修

### (1)方針

博士人材が将来多様なキャリアパスで活躍するために必要なコンピテンシーは、研究活動をベースとして育成する研究力に加えて、以下 3 つを定める。

- ①アントレプレナーシップおよびコミュニケーション・プレゼンテーション能力、②社会課題の解決に資するデータサイエンス・情報科学の素養、③実践的英語力

特にアントレプレナーシップを涵養することは、難題に果敢に挑戦する高い志や心意気、途なきところに途をつくる進取精神、チームビルディングできる巻き込み力、自身の思いを伝えて資金を獲得できる能力を身に付けることに繋がり、企業人材や起業家のみならず、研究者が新しい融合分野を築いたり、社会課題に資する研究に取り組んだりする際に必要となる。これらコンピテンシーを開発・育成するために本学設置科目等を履修することを義務付け、科目履修単位数は、3年間合計で 9 単位相当を履修することを基本とするが、採択時の学年等に応じて履修を一部免除する。

### (2)要件

2026 年度において、履修を要する科目は下表の備考欄記載の通りだが、次年度以降、科目設置内容に変更が生じた場合には、採択者に適宜履修対象科目を通達する。

なお、下表のとおり、「採択時学年」によりそれぞれの必要単位数が異なることに留意すること（2026 年 4 月 1 日時点で D1 の場合は支援期間中に 9 単位、D2 の場合には支援期間中に 6 単位の単位修得が必要となる）。

#### [A] 通常の博士後期課程学生について

コンピテンシー	博士後期課程学生		備考
	採択時学年 D1	採択時学年 D2	
①アントレプレナーシップ およびコミュニケーション・ プレゼンテーション 能力	5 単位	3 単位	●グローバル・エデュケーション・センター（以下、GEC）が提供する「ビジネス創出科目」（（4）2026 年度開講科目一覧①-1 に掲載されている科目のみ対象）および「事業創造演習α」より選択して履修。 ●詳細は、（4）2026 年度開講科目一覧①を参照。
②社会課題の解決に資 するデータサイエンス・ 情報科学の素養 <sup>※1</sup>	2 単位	2 単位	●GEC が提供する「データ科学認定制度科目」の中級以上の科目より選択して履修。 ●詳細は、（4）2026 年度開講科目一覧②を参照。
③実践的英語力	2 単位	1 単位	●（4）2026 年度開講科目一覧③実践的英語学力対象科目より、選択して履修。
<b>合計必要単位数</b>	<b>9 単位</b>	<b>6 単位</b>	

#### [B] 一貫制博士課程学生（先進理工学専攻学生）について

コンピテンシー	先進理工学専攻学生		備考
	採択時学年 D1	採択時学年 D2	
①アントレプレナーシップ およびコミュニケーション・ プレゼンテーション 能力	5 単位	3 単位	●GEC が提供する「ビジネス創出科目」（（4）2026 年度開講科目一覧①-1 に掲載されている科目のみ対象）および「事業創造演習α」より選択して履修。 ●詳細は、（4）2026 年度開講科目一覧①を参照。
②社会課題の解決に資 するデータサイエンス・ 情報科学の素養 <sup>※1</sup>	2 単位	2 単位	<全学生共通> ●GEC が提供する「データ科学認定制度科目」の中級以上の科目より選択して履修。 ●詳細は、（4）2026 年度開講科目一覧②を参照。
③実践的英語力	免除	免除	—
<b>合計必要単位数</b>	<b>7 単位</b>	<b>5 単位</b>	

※1 「②社会課題の解決に資するデータサイエンス・情報科学の素養」の内、「データ科学認定制度科目」の指定科目は、データ科学認定制度における中級科目であるため、理解の前提として統計・データサイエンスの基礎知識が必要となります。統計・データサイエンスを基礎から学びたい学生は、データ科学センターの以下の支援サービスを活用し、履修計画を立ててください。

<データ科学センターによる支援>

●自習用オンデマンドコンテンツの活用

登録を行うことで、統計・データサイエンスに関するコンテンツを自由に閲覧することができ、自分のペースで基礎から学ぶことができます（自習用オンデマンドコンテンツを視聴しても単位としては認定されませんのでご注意ください）。

<URL> <https://www.waseda.jp/inst/cds/education/d-data>

●データ科学履修相談

統計・データサイエンスをどのように学べばよいかについて、オンラインで相談することが可能です。

<URL> [https://www.waseda.jp/inst/cds/forms#anc\\_4](https://www.waseda.jp/inst/cds/forms#anc_4)

●データ科学研究相談

自身の研究への統計・データサイエンスの活用について、オンラインで相談することが可能です。

<URL> [https://www.waseda.jp/inst/cds/forms#anc\\_7](https://www.waseda.jp/inst/cds/forms#anc_7)

●参考：データ科学認定制度

2022年度設置の本学独自の認定制度。

<URL> <https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditation>

ただし、上記[A]・[B]ともに、次のいずれかに該当する場合は記載の要件を適用する。

a.早稲田大学パワー・エネルギー・プロフェッショナル育成プログラム生（PEP 学生）

コンピテンシー	PEP 学生		備考
	採択時学年 D1,D2		
①アントレプレナーシップおよびコミュニケーション・プレゼンテーション能力	2 単位		●GEC が提供する「ビジネス創出科目」（（4）2026 年度開講科目一覧①-1 に掲載されている科目のみ対象）および「事業創造演習a」より選択して履修。 ●詳細は、（4）2026 年度開講科目一覧①を参照。
②社会課題の解決に資するデータサイエンス・情報科学の素養	免除		—
③実践的英語力	免除		—
<b>合計必要単位数</b>	<b>2 単位</b>		

b. 実体情報学コース学生

コンピテンシー	実体情報学コース学生		備考
	採択時学年 D1	採択時学年 D2	
①アントレプレナーシップおよびコミュニケーション・プレゼンテーション能力	3 単位	1 単位	●GEC が提供する「ビジネス創出科目」（（4）2026 年度開講科目一覧①-1 に掲載されている科目のみ対象）および「事業創造演習a」より選択して履修。 ●詳細は、（4）2026 年度開講科目一覧①を参照。
②社会課題の解決に資するデータサイエンス・情報科学の素養	免除	免除	—
③実践的英語力	2 単位	1 単位	●（4）2026 年度開講科目一覧③実践的英語学力対象科目より、選択して履修。
<b>合計必要単位数</b>	<b>5 単位</b>	<b>2 単位</b>	

c. 大学院カーボンニュートラル副専攻 ライフ、国際関係、経済・経営、人文・学際、公共政策コース 履修学生

コンピテンシー	博士後期課程学生		備考
	採択時学年 D1	採択時学年 D2	
①アントレプレナーシップおよびコミュニケーション・プレゼンテーション能力	免除	免除	—
②社会課題の解決に資するデータサイエンス・情報科学の素養 <sup>※1</sup>	免除	免除	—
③実践的英語力	2 単位	1 単位	● (4) 2026 年度開講科目一覧③実践的英語学力対象科目より、選択して履修。
<b>合計必要単位数</b>	<b>2 単位</b>	<b>1 単位</b>	

※博士後期課程入学時に、大学院カーボンニュートラル副専攻前期課程を修了予定であり、博士後期課程において当該副専攻で定めるプログラムを引き続き履修する意思があることをもって、当該副専攻の履修学生と判断します。

(3)単位免除等について

応募前に本プログラムで指定する科目を履修済みの場合について

<全学生共通>

W-SPRING 応募前に指定する科目を履修済の場合は、新たに履修を求めず履修済み単位として、要件に繰り入れ、その差分を履修する※。なお、本学以外で修得した類似科目については、単位免除の対象としない。

※例：2026 年度採択の D1 学生が修士において、「データ科学認定制度科目」の中級以上の科目 2 単位分を既に履修している場合は、「キャリア開発・育成プログラム」の履修にかかる必要単位数は、「アントレプレナーシップおよびコミュニケーション・プレゼンテーション能力」に関する科目を 5 単位と「実践的英語力」に関する科目を 2 単位の計 7 単位とする。

①アントレプレナーシップおよびコミュニケーション・プレゼンテーション能力および、②社会課題の解決に資するデータサイエンス・情報科学の素養について

<全学生共通>

「9. インターンシップへの参加」に記載のとおり、インターンシップに参加した場合は、「アントレプレナーシップおよびコミュニケーション・プレゼンテーション能力」もしくは、「社会課題の解決に資するデータサイエンス・情報科学の素養」に課されている単位数を 2 単位免除する。

①アントレプレナーシップおよびコミュニケーション・プレゼンテーション能力について

<全学生共通>

・博士学生の研究提案力を磨くため、博士学生が申請可能な社会実装型の以下 a、b の公的研究事業※に応募することも推奨する。いずれかの研究事業に採択された場合には、「アントレプレナーシップおよびコミュニケーション・プレゼンテーション能力」に関する科目履修は全て免除する。

※対象の公的研究事業

a. JST「戦略的創造研究推進事業 (ACT-X) 」

b. 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) 「官民による若手研究者発掘支援事業」

なお、「戦略的創造研究推進事業 (ACT-X) 」と「官民による若手研究者発掘支援事業」については、提案書の書き方やプレゼンテーションの仕方を本学リサーチ・イノベーション・センター (RIC) 所属の URA が指導する。

・「スタンフォード大学 d.school 講師によるデザイン思考ワークショップ」(2 日間、各日 9 時～18 時、言語：英語)に参加した場合は、「アントレプレナーシップおよびコミュニケーション・プレゼンテーション能力」に関する科目履修を 2 単位相当免除とする。本プログラムを実施する場合、実施内容、参加申込受付については、W-SPRING 事務局より別途案内する。

(参考) 2025 年度の本プログラム実施内容

<https://dpt-wspring.w.waseda.jp/724>

<早稲田大学パワー・エネルギー・プロフェッショナル育成プログラム生（PEP 学生）>

以下の科目を履修した場合には、「アントレプレナーシップおよびコミュニケーション・プレゼンテーション能力」に関する科目履修を 2 単位免除する。

「マーケティングと社会価値創造」（2 単位）

<一貫制博士課程学生（先進理工学専攻学生）>

以下の科目を履修した場合には、「アントレプレナーシップおよびコミュニケーション・プレゼンテーション能力」に関する科目履修を 1 単位免除する。

「リーダーシップ開発プログラム」（1 単位）

## ②社会課題の解決に資するデータサイエンス・情報科学の素養について

<一貫制博士課程学生（先進理工学専攻学生）>

以下の科目を履修した場合には、「社会課題の解決に資するデータサイエンス・情報科学の素養」に関する科目履修を最大 2 単位免除する。

「マテリアルズインフォマティクスα」（1 単位）、「マテリアルズインフォマティクスβ」（1 単位）

## ③実践的英語力について

<全学生共通>

定量的に英語で議論する科目を受講することを想定しているが、以下に示す要件を満たす学生については、所定の手続きを経て、実践的英語力に関する科目履修を全て免除する。なお、同科目は言語としての英語を履修するものではないことから、単に英語がネイティブであるということだけをもって履修を免除するものではない。

- TOEIC スコア 800 以上
- TOEFL iBT スコア 79 以上
- IELTS Academic スコア 6.5 以上

<基幹・創造・先進理工学研究科学生>

修士課程において以下の科目について単位修得済みの場合は、所定の手続きを経て、修得単位数分を免除する。

- ・Professional Communication 2
- ・Workplace English 2
- ・Advanced Technical Reading and Writing 2
- ・Advanced Technical Presentation

<一貫制博士課程学生（先進理工学専攻学生）>

以下の科目について単位修得済みの場合は、所定の手続きを経て、修得単位数分を免除する。

- ・Discussion Tutorial English in Science and Engineering 1
- ・Discussion Tutorial English in Science and Engineering 2

(4)2026 年度開講科目一覧 ※2026 年 1 月 30 日時点の予定です。今後変更になる可能性があります。

●グローバル・エデュケーション・センター設置科目については、科目登録ガイドを参照のこと。

URL: <https://www.waseda.jp/inst/gec/graduate/registration/>

①-1 グローバル・エデュケーション・センター設置：ビジネス創出科目

科目名	単位
起業特論 A：トップリーダーマネジメント	1
起業特論 B：いかに企業内/企業と共に新規事業を立ち上げられる人材になるか	1
Advanced Course on Entrepreneurship (※1)	1
イノベーション人材になるためのコーチング研修 (ベーシック)	1
Data Business Creation (※1)	1
大川ドリーム基金寄附講座 グローバル・ベンチャー企業の創出と経営－起業家の価値創造戦略－ (※2) ※2026 年度は休講	2
ビジネスアイデア・デザイン (BID)	2
実践データ分析ビジネスコンサルティング	2
デザインシンキング	1
Design Thinking (※1)	1
ビジネスモデル仮説検証 (エッセンシャル) 0 1	1
ビジネスモデル仮説検証 (エッセンシャル) 0 2	1
ビジネスモデル仮説検証 (プレミアム)	2
博士実践特論 A：イノベーションリーダーシップ	2
博士実践特論 B：産業イノベーションとキャリアデザイン	1
博士実践特論 S：ロジカルコミュニケーション	2
Fundamentals and Practice of Business Idea Pitching (※1)	1
CSR マネジメント実践	2
Examining Corporate Social Responsibility from a Global Perspective (※1)	1
イノベーション概論 1：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ	1
イノベーション概論 2：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ	1
Innovation and Technology Fundamentals α (※1)	1
Innovation and Technology Fundamentals β (※1)	1
Innovation and Technology Practice α (※1)	1
Innovation and Technology Practice β (※1)	1
AI ビジネスクリエーション	1
AI Business Creation (※1)	1
人工知能とビジネスモデル創出	1
Business Model Creation with AI Technologies (※1)	1
Transnational Leader in the Era of Transformation (※3)	2
先端生命医科学特論 (※4)	2

※1：英語による科目クラスあり

※2：基幹・創造・先進理工学研究科生は所属研究科の科目を履修し、上記以外の学生は経営管理研究科の科目を履修すること

※3：経営管理研究科設置科目

※4：基幹・創造・先進理工学研究科生は所属研究科の科目を履修し、上記以外の学生は基幹理工学研究科の科目を履修すること

①-2 グローバル・エデュケーション・センター設置：事業創造演習α

科目名	単位数
事業創造演習α 0 1	1
事業創造演習α 0 2	1
事業創造演習α 0 3	1

②-1 グローバル・エデュケーション・センター設置：データ科学認定制度科目（※中級科目を抜粋）

科目名	単位数
回帰と分類のデータ科学 01	1
回帰と分類のデータ科学 02	1
回帰と分類のデータ科学 03 (※1)	1
回帰と分類のデータ科学 04	1
時系列構造のデータ科学 01	1
時系列構造のデータ科学 02	1
時系列構造のデータ科学 03	1
時系列構造のデータ科学 04	1
潜在構造のデータ科学 01	1
潜在構造のデータ科学 02	1
潜在構造のデータ科学 03 (※1)	1
潜在構造のデータ科学 04	1
空間構造のデータ科学 01	1
空間構造のデータ科学 02	1
空間構造のデータ科学 03	1
空間構造のデータ科学 04	1
因果構造のデータ科学 01	1
因果構造のデータ科学 02	1
因果構造のデータ科学 03	1
因果構造のデータ科学 04	1
生成 AI のデータ科学 02	1
生成 AI のデータ科学 03	1
生成 AI のデータ科学 04	1
統計リテラシーγ 01 (※1)	1
統計リテラシーγ 02	1
統計リテラシーγ 03 (※1)	1
統計リテラシーγ 04	1
統計リテラシーδ 01	1
統計リテラシーδ 02 (※1)	1
統計リテラシーδ 03	1
統計リテラシーδ 04 (※1)	1

※1：日本語・英語による科目。

②-2 情報生産システム研究科設置：データ科学関連科目

※情報生産システム研究科以外の学生については、「他研究科提供科目」の科目登録期間中に科目登録を行ってください。

設置箇所	科目名	単位
情報生産システム研究科	機械翻訳技術（※1）	2
	ニューラルネットワーク（※2）	2
	機械学習（※2）	2

※1：英語による科目。遠隔受講者についてはオンライン対応可

※2：英語・日本語による科目。遠隔受講者についてはオンライン対応可

③基幹・創造・先進理工学研究科設置：実践的英語力対象科目（※3）

<基幹・創造・先進理工学研究科所属の学生>

設置箇所	科目名	単位
基幹理工学研究科	Doctoral Student Technical Writing 集春アントニ（1）（2）	1
	Doctoral Student Technical Writing 春水5国吉 ※2026年度は休講	1
	Doctoral Student Technical Writing 秋水5国吉 ※2026年度は休講	1
	Doctoral Student Technical Writing 秋木5コース	1
	Doctoral Student Presentation Skills 集秋アントニ（1）（2）	1
	Doctoral Student Presentation Skills 春木5コース	1

<上記以外の研究科所属の学生> ※「他研究科提供科目」の科目登録期間中に科目登録を行ってください。

(1) 推奨科目

設置箇所	科目名	単位
基幹理工学研究科	Doctoral Student Technical Writing 集春アントニ（1）（2）	1
	Doctoral Student Technical Writing 春水5国吉 ※2026年度は休講	1
	Doctoral Student Technical Writing 秋水5国吉 ※2026年度は休講	1
	Doctoral Student Technical Writing 秋木5コース	1
	Doctoral Student Presentation Skills 集秋アントニ（1）（2）	1
	Doctoral Student Presentation Skills 春木5コース	1

(2) 上記「推奨科目」以外に単位として認められる科目

設置箇所	科目名	単位
基幹理工学研究科	Professional Communication 2 火2シエパード（秋学期）	1
	Workplace English 2 木2シーハン（秋学期）	1
	Advanced Technical Reading and Writing 2 金4国吉（秋学期） ※2026年度は休講	1
	Advanced Technical Reading and Writing 2 月4コース（秋学期）	1
	Advanced Technical Presentation 木3コース（春学期）	1
	Advanced Technical Presentation 水3アントニ（春学期）	1
	Advanced Technical Presentation 木3コース（秋学期）	1
	Advanced Technical Presentation 水3アントニ（秋学期）	1

※3「実践的英語力対象科目」の履修にあたっては、以下の点に留意し、計画的に履修してください。

・同一科目名の科目については、いずれか1科目しか履修できません。

例) 「Doctoral Student Technical Writing 集春アントニ（1）」と「Doctoral Student Technical Writing 春水5国吉」は、同じ科目の別クラスとなります。したがって、いずれか1科目しか登録できません。

・以下の科目分類（No.1, 2）については、同一科目分類内での対象科目の同時履修または重複履修はできません。各科目群内の両科目を履修した場合にもいずれか1科目のみの単位認定となりますのでご注意ください。

科目分類 No.	対象科目	単位認定
1	「Doctoral Student Technical Writing」 「Advanced Technical Reading and Writing 2」	いずれか 1 単位のみ
2	「Doctoral Student Presentation Skills」 「Advanced Technical Presentation」	いずれか 1 単位のみ

例) 「Doctoral Student Technical Writing」と「Advanced Technical Reading and Writing 2」の 2 科目を修得した場合、W-SPRING 上はいずれか 1 単位のみ単位認定となります。

## 8. 国際性を涵養するプログラムへの参加

### (1)方針

博士人材が産業界等で幅広く活躍するために、本プログラム学生の国際性の涵養を図る。国際性の涵養を促す取組として、以下の 4 つのプログラムを設定する。

支援対象学生は、採択後にいずれかのプログラムを選択して、参加することを必須とする。ただし、「③海外大学と連携した教育プログラムへの参加」については「(3)要件に対する免除について」とおり、免除されることがある。

なお、プログラムの選定は、指導教員と相談した上で決定すること。

#### ①国際学会での研究発表

国際学会で自身の研究内容を発表することにより、世界の研究者と英語でコミュニケーションを図り、自身の研究の深化と国際性の涵養を図る。

#### ②海外教員による研究指導

海外大学・研究機関の外国人教員による副査、あるいは研究アドバイザーを依頼し研究指導を受けることで、自身の研究の深化と国際性の涵養を図る。

#### ③海外大学と連携した教育プログラムへの参加

カリフォルニア大学サンディエゴ校と連携した Micro MBA プログラムを受講し、気鋭の教員による英語プログラムを受講することで、国際性の涵養を図る。

#### ④海外大学・研究機関等への派遣

本学と提携している海外の大学・研究機関において 1 か月程度海外に滞在し、研究活動を通して国際性の涵養を図る。

### (2)要件 ※採択後にいずれかのプログラムを選択して、参加すること。

プログラム名	概要・要件
①国際学会での研究発表	プログラム進捗報告書で国際学会での研究発表の活動状況を報告すること。
②海外教員による研究指導	プログラム進捗報告書で研究指導内容を報告すること。
③海外大学と連携した教育プログラムへの参加	例年 2 月～3 月頃に募集される Micro MBA プログラム（選考有）を受講・修了すること。
④海外大学・研究機関等への派遣	プログラム進捗報告書で海外での研究活動内容を報告すること。

### (3)要件に対する免除について

(2)に記載の「③海外大学と連携した教育プログラムへの参加」について、W-SPRING 採択前に既にかリフォルニア大学サンディエゴ校と連携した Micro MBA プログラムを修了済みの場合は、所定の手続きを経て、本プログラムは実施済とする。

## 9. インターンシップへの参加

### (1)方針

身に付けた能力の実践の場、キャリアデザインの機会提供の場として、ジョブ型研究インターンシップ※またはその他のインターンシップへの参加を強く推奨するが、インターンシップ先が見つからない場合、研究テーマを直接活かせる内容での実施に限らず、研究テーマ以外での挑戦的な内容での実施、海外企業や国際機関のインターンシッププログラムに応募・参加しての実施等、多様な実施形態を認めることとする。インターンシップの参加にあたっては、指導教員と相談した上での参加を必要とする。また、本プログラムの方針に則った、カリキュラム外でのインターンシップ先を、申請者自身が開拓することを認める。

※参考：ジョブ型研究インターンシップ概要

資料①<https://waseda.box.com/s/7anabpazz22clz3r1mcxhb5zvp8nizo8>

資料②<https://waseda.box.com/s/x2vw340r7yg2b0stgagygnp0bv7jox7g>

### (2)要件

プログラム名	概要・要件
ジョブ型研究インターンシップの参加または、その他のインターンシップの参加	プログラム進捗報告書でインターンシップの状況について報告し、W-SPRING がその活動内容を承認（※）すること。

※ 本プログラムの趣旨に基づく活動内容か、報告内容の確認をもって、個別判断する予定です。

### (3)要件に対する免除について

- ・本プログラム採択期間中に、民間企業等、学外機関の研究者との共同研究を実施した場合は、所定の手続き（（2）要件で定めるプログラム進捗報告書による報告及び W-SPRING による承認）を経て、本プログラムは実施済とする。

## 10. プログラム進捗報告

### (1) プログラム進捗報告書の提出

以下書類の提出により、プログラムの進捗報告を行う。

- 提出書類（提出書類①②については毎年、③④については実施後直近の提出時期に提出）
  - ①プログラム進捗報告書
  - ②キャリア開発・育成プログラムの履修状況を示す書類（成績証明書等）
  - ③国際性を涵養する取組への参加状況を示す書類（研究指導の記録、プログラム参加・海外派遣を証明する書類等）
  - ④企業インターンシップ等への参加状況を示す書類（受入企業とのインターンシップ覚書など）

#### ● 提出時期（予定）

以下の期限までに上記の提出書類を提出する。

4月入学者：支援年の翌年3月15日までに提出

9月入学者：支援年の翌年9月15日までに提出

【例：2026年度春から支援開始する場合】

支援開始時の 学年・在学期間		2026年	2027年		2028年		2029年
学年	在学期間	9月	3月	9月	3月	9月	3月
D1	0.0年		★		★		★
	0.5年	★		★		★	
D2	1.0年		★		★		

（書類提出イメージ ★=提出時期）

### (2) プログラム成果報告会の実施

D3 学生時の支援最終学期にプログラム成果報告会を実施する（予定）。

## 11. 応募方法

### ※応募書類提出の前に※

以下の申請フォームより、申請の事前登録を行うこと。

事前登録フォーム：

<https://my.waseda.jp/application/noauth/application-detail-noauth?param=RhzutUHjRoZr1cW5a9OQ9A>

事前登録期間：2026年1月30日（金）12時（正午）～2026年2月13日（金）17時

上記の事前登録を済ませた上で、以下のとおり応募すること。

#### (1)応募期間

2026年1月30日（金）12時（正午）～2026年2月17日（火）17時

#### (2)応募書類

応募書類（申請書）は、以下の Web サイトからダウンロードすること。

URL（日）：<https://dpt-wspring.w.waseda.jp/application>

URL（英）：<https://dpt-wspring.w.waseda.jp/en>

なお、申請に際しては事前に指導教員に相談し、承認を得た上で、応募すること。

#### (3)申請手続き

- 以下 Web サイト内の申請フォームより必要事項を入力し、「(2) 応募書類」を PDF 化し申請すること。

URL（日）：<https://dpt-wspring.w.waseda.jp/application>

URL（英）：<https://dpt-wspring.w.waseda.jp/en>

- ファイル名は以下のとおり、英数字で記載すること。

申請書：対象分野\_学年\_氏名

例) グリーン分野に申請する新 D1 学生の場合

Green\_D1\_Waseda Taro.pdf

なお、対象分野について、グリーンイノベーションは Green、ライフイノベーションは Life、デジタルイノベーションは Digital、ソーシャルイノベーションは Social で表記し、学年は、下表のとおり記載すること。

表記学年	博士後期課程	一貫制博士課程
D1	1年	3年
D2	2年	4年

#### (4)留意事項

##### ●所定の分量や指示を守って作成すること。

- 一度提出した申請書類の変更は認めない。必要書類が揃っていない等の不備があった場合も同様とし、そのまま審査を行う。また、一度提出した申請書類の返却も行わない。
- 申請時に収集した個人情報については、審査実施、合格者発表、登録手続きおよびこれに付随する業務のためだけに使用する。その際、当該個人情報の漏洩・流出・不正使用等がないよう、必要かつ適切な管理をそれぞれ行う。また上記業務の全部又は一部を委託する場合がある。その場合は、委託先に対し契約等により、必要かつ適切な管理を義務付ける。
- 事前登録および応募書類提出時に登録する審査区分は同一のものとする。万一、事前登録と応募書類提出時の審査区分が異なる場合は、応募書類提出時の審査区分で審査を行う。
- 書面審査・面接審査にあたっては、多様な専門分野の審査員が審査することから、理解しやすいよう分かりやすい表現で記載・発表を行うこと。

#### (5)本事業に関する質問がある場合

- 本事業に関する質問がある場合は、以下の問い合わせフォームから申請すること。

問い合わせフォーム URL：<https://bit.ly/2WiXuf4>

## 12. 選考について

### (1)選考方法

選考は、書面審査と面接審査（Zoom で実施予定）の二段階で実施し、総合的に判定する。面接審査は、書面審査通過者を対象として実施する。

#### <面接審査に関する留意事項>

- 面接審査におけるプレゼンテーションは1名につき**3分間（時間厳守）**の持ち時間で実施する。
- プレゼンテーションでは、「研究の社会的意義」および「将来計画」を中心に、以下の点も含めて説明すること。
  - ・「研究方法・スケジュールの妥当性」
  - ・「研究の特色・独創性・挑戦性」
  - ・「産学連携を意識した研究計画」
- その際、必ず時間内で説明が完了するよう、資料（**PowerPointであれば最大でスライド3枚程度**）を準備すること。また、自身の「**研究の独創性」「産業界との連携**」について**最後のスライドにまとめて記載し必ず触れること**。
- 応募書類を英語で提出している場合は、原則として面接審査も英語により実施する。
- スムーズな面接審査が実施できるよう、事前にZoomにおける資料共有の仕方等を確認しておくこと。

### (2)選考スケジュール

	実施期間	備考
事前登録	2026年1月30日（金）12時（正午） ～2月13日（金）17時	応募者は必ず事前登録を行うこと。
申請受付	2026年1月30日（金）12時（正午） ～2月17日（火）17時	—
書面審査	2026年2月下旬	メールで書面審査の採否および面接審査の日時を以下の日に通知する： 2026年3月5日（木）中 ※通知した面接審査日時の変更は、いかなる理由であっても受け付けない。
面接審査 （Zoom）	2026年3月7日（土）・8日（日） ※分野ごとの日程は以下の通り ・3/7（土） ソーシャルイノベーション デジタルイノベーション ・3/8（日） グリーンイノベーション ライフイノベーション	・面接の内容は、審査に使用するため本学にて録画する。 ・メールで面接審査の採否結果を以下の日に通知する： 2026年3月19日（木）以降 ※審査スケジュールの関係上、変動する可能性がある。 ※面接審査で不採択となった者に対して、補欠採用を行うことがある。
登録手続き・ 誓約書の提出	2026年3月中旬～下旬	提出期限等は別途案内する。
支援開始	2026年4月1日（水）	研究費の使用開始 ※発注開始可能
	2026年4月末予定	4月分の生活費相当額の振込 研究費の配付・経理処理開始

## 13. 問合せ先

W-SPRING 部会事務局

URL : <https://bit.ly/2WiXuf4>

以上